

---

大平洋金属株式会社  
2023年3月期 第2四半期決算説明会

---

2022年11月17日

当社ホームページ

<https://www.pacific-metals.co.jp/>

お問い合わせ先

総務部(IR担当)TEL:03-3201-6681

## 1. 経営環境について

(1) LMEニッケル価格・ニッケル在庫数量の推移	4
(2) 世界のステンレス生産とニッケル需給見通し	5
(3) 地域別ステンレス生産とニッケル需給見通し	6
(4) ニッケル銑鉄(NPI)生産の動向	7

## 2. 2023年3月期 第2四半期決算実績

(1) 第2四半期決算実績(サマリー)	9
(2) 第2四半期決算実績(トピックス)	10
(3) 連結経常損益分析	11

## 3. 2023年3月期 通期決算見通し

(1) 通期決算見通し(サマリー)	13
(2) 通期決算見通し(トピックス)	14
(3) 国別販売先の動向	15
(4) 国別販売見通し	16
(5) 連結経常損益分析	17

## 4. 中期経営計画「PAMCO-2024」の進捗状況

(1) 主な重点施策の進捗状況まとめ	19
(2) 鉱石調達について	22
(3) ESGへの取り組み	23

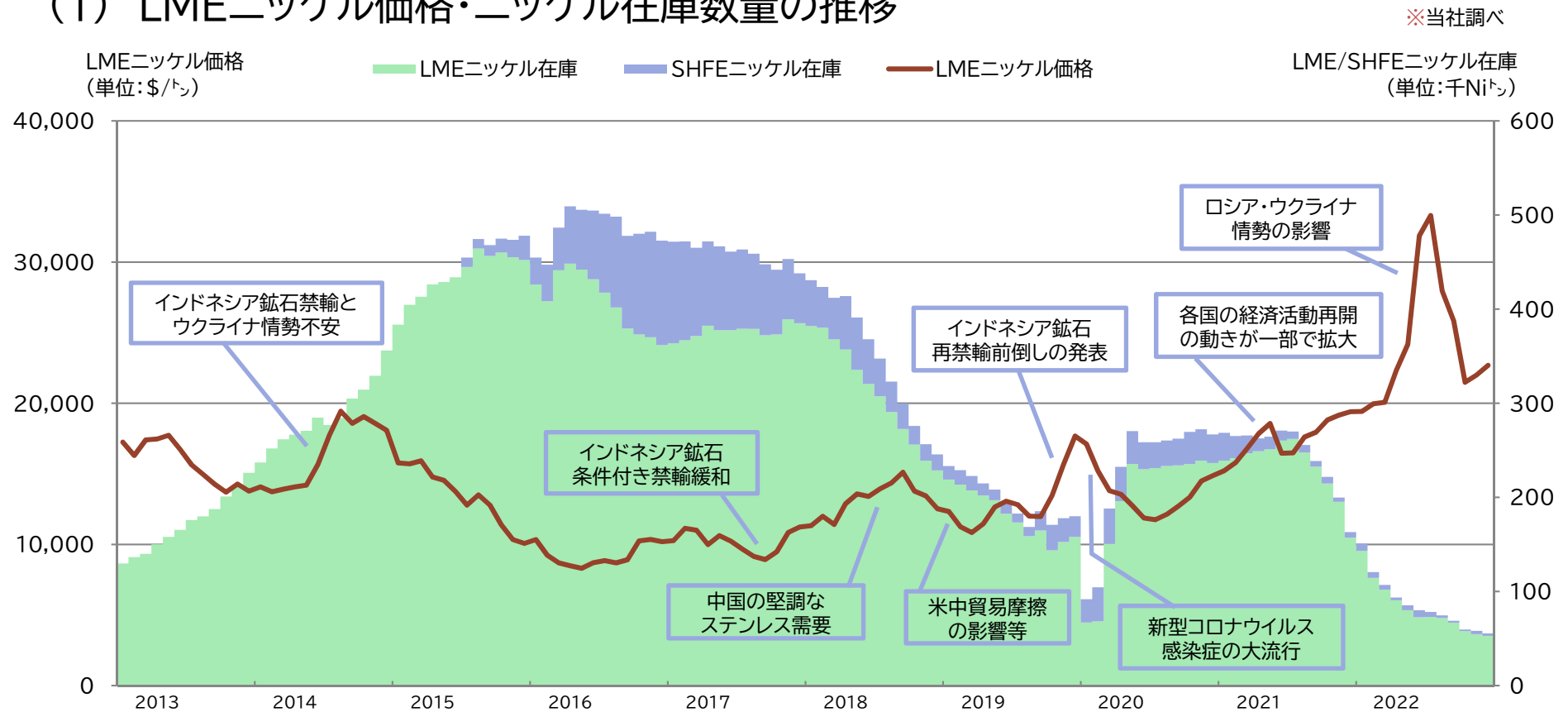
---

# 1. 経営環境について

---

# 1. 経営環境について

## (1) LMEニッケル価格・ニッケル在庫数量の推移



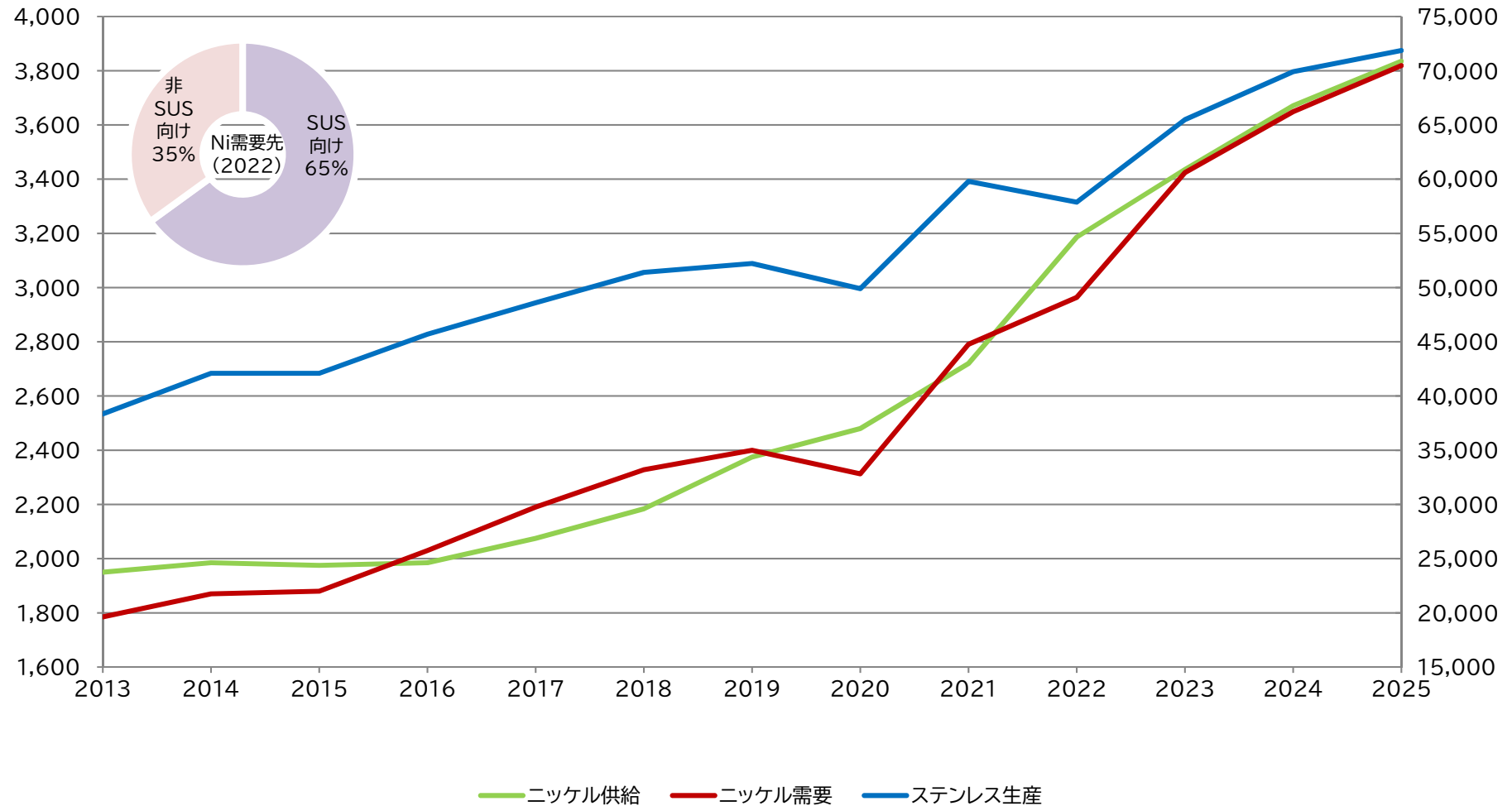
業績の推移	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3
売上高 (百万円)	58,488	56,408	61,225	47,649	38,697	41,210	49,062	44,133	32,217	57,129
営業利益 (百万円)	2,168	△4,079	△7,787	△15,357	△3,070	△3,239	176	△1,879	△493	4,806
経常利益 (百万円)	4,920	△1,838	△91	△12,283	△515	△203	3,451	972	3,344	12,999

## (2) 世界のステンレス生産・ニッケル需給見通し

※当社調べ

ニッケル需給(単位:千Niト)

ステンレス生産(単位:千ト)



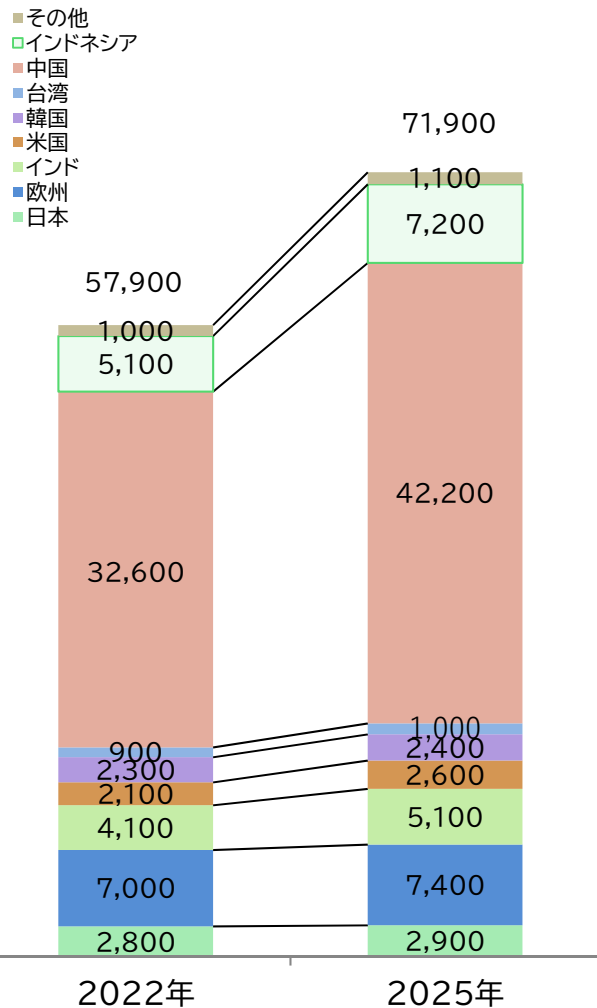
# 1. 経営環境について

## (3) 地域別ステンレス生産とニッケル需給見通し

※当社調べ

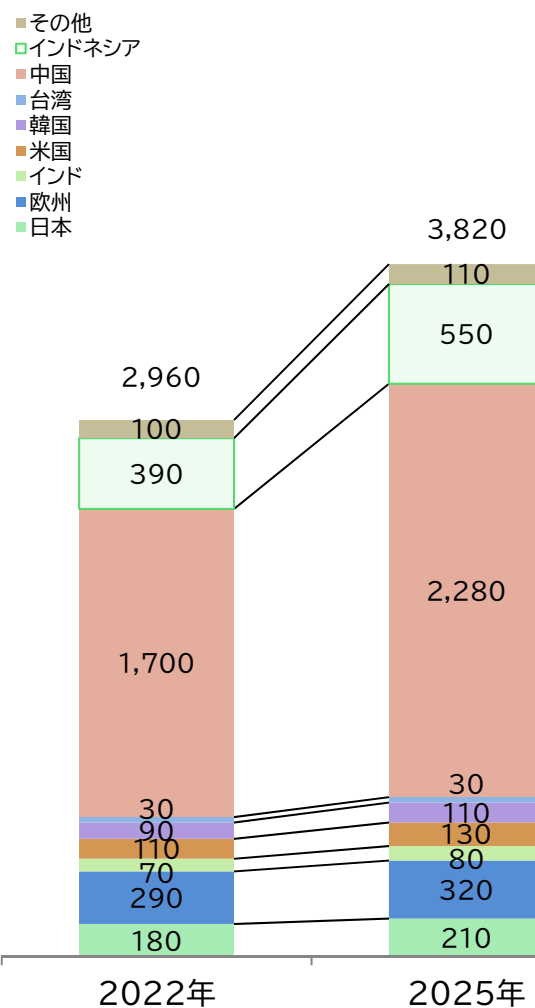
### ステンレス生産見通し

(単位:千ト)



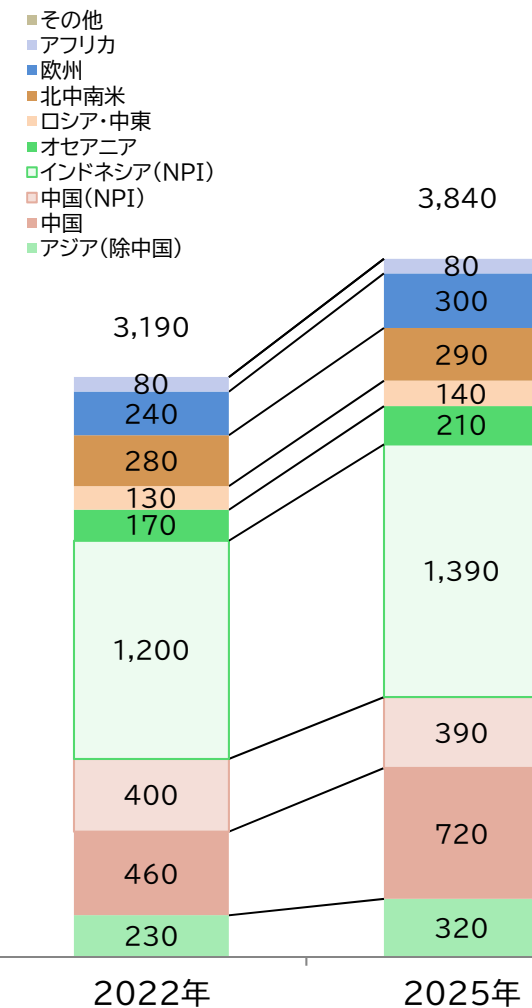
### ニッケル需要見通し

(単位:千Niト)



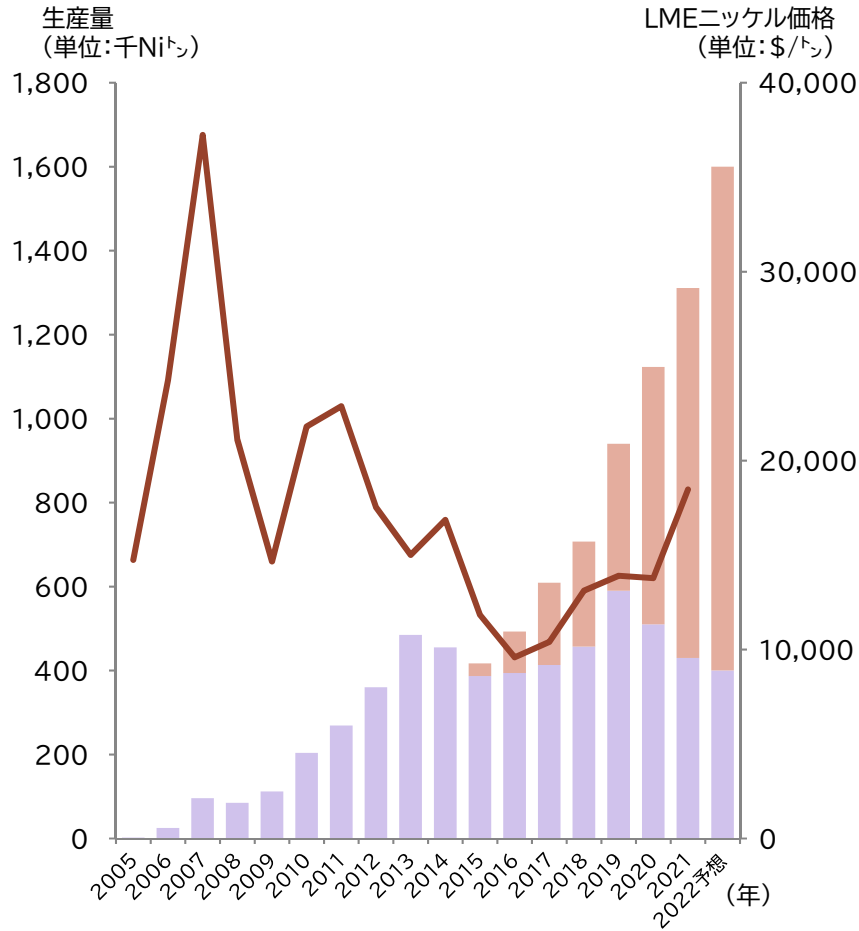
### ニッケル供給見通し

(単位:千Niト)



## (4) ニッケル銑鉄(NPI)生産の動向

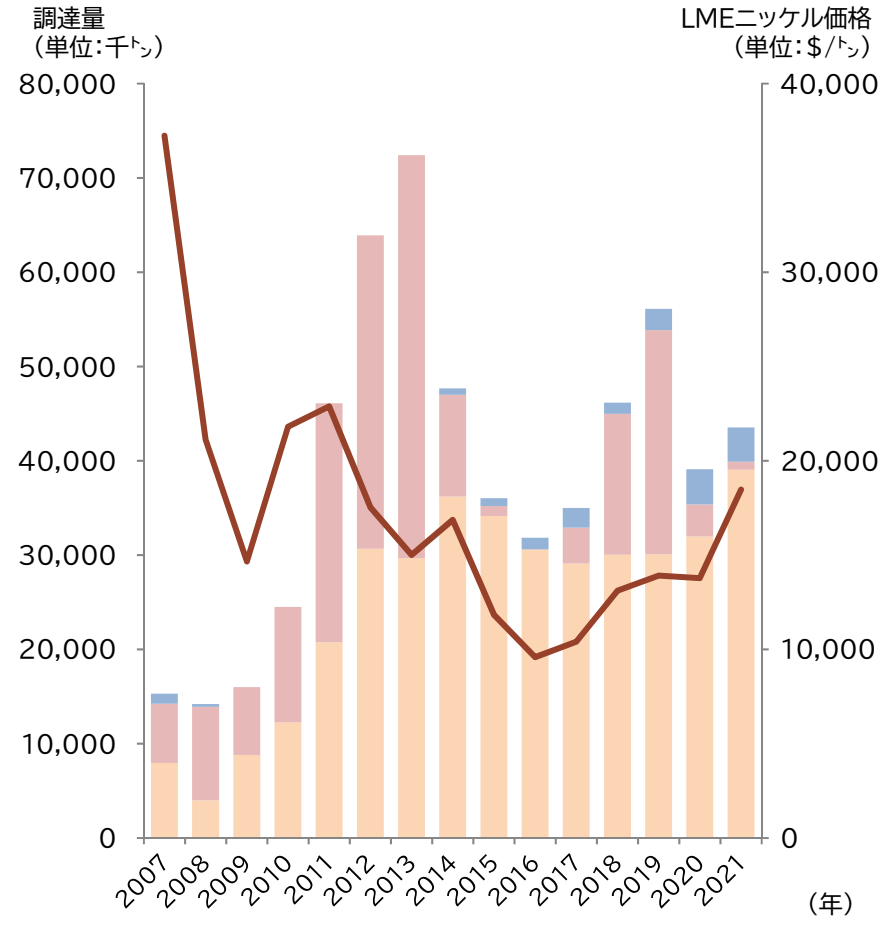
### ニッケル銑鉄(NPI)生産量の推移



中国NPI    インドネシアNPI    LMEニッケル価格

### 中国のニッケル鉱石調達量の推移

※当社調べ



フィリピン    インドネシア    その他    LMEニッケル価格

---

## 2. 2023年3月期 第2四半期決算実績

---



## 2. 2023年3月期 第2四半期決算実績

9

### (1) 第2四半期決算実績(サマリー)

	2021.9 実績		2022.9 予想 (7/29発表)		2022.9 実績		対 前年同期比 (%)	対 7/29発表 予想比 (%)
	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)		
売上高	24,098	—	25,068	—	17,642	—	△26.8	△29.6
営業利益	952	4.0	△78	△0.3	△4,464(*)	△25.3	—	—
経常利益	3,995	16.6	2,705	10.8	605(*)	3.4	△84.8	△77.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,405	14.1	2,294	9.2	229(*)	1.3	△93.3	△90.0
(投資額)	230	—	—	—	497	—	116.1	—
(減価償却費)	131	—	—	—	135	—	3.1	—

(\*) 棚卸評価損 59億円(2022.9 実績)を除く損益：営業利益 15億円、経常利益 65億円、四半期純利益 61億円

	2021.9 実績	2022.9 予想 (7/29発表)	2022.9 実績	対 前年同期比 (%)	対 7/29発表 予想比 (%)
生産数量(Niト)	11,874	9,008	8,079	△32.0	△10.3
販売数量(Niト)	12,957	8,516	5,668	△56.3	△33.4
適用LME(US\$/ト)	17,902	26,279	26,720	49.3	1.7
[適用LME(US\$/lb.)]	[ 8.12 ]	[ 11.92 ]	[ 12.12 ]		
適用為替(¥/US\$)	109.16	122.46	131.49	20.5	7.4

### (2) 第2四半期決算実績(トピックス)

#### ①調達面

- ニッケル鉱石価格
  - 調達価格は高水準で推移
- エネルギーコスト
  - 原燃料価格・電力コストの高騰により生産コストの上昇幅が拡大

#### ②販売数量面

- 電気炉溶融物漏出事故の影響
- 海外ステンレス生産者の原料調達が比較的価格優位性が見られる  
ニッケル銑鉄(NPI)等へ一部シフト
- ステンレス鋼業界における設備稼働率にばらつき

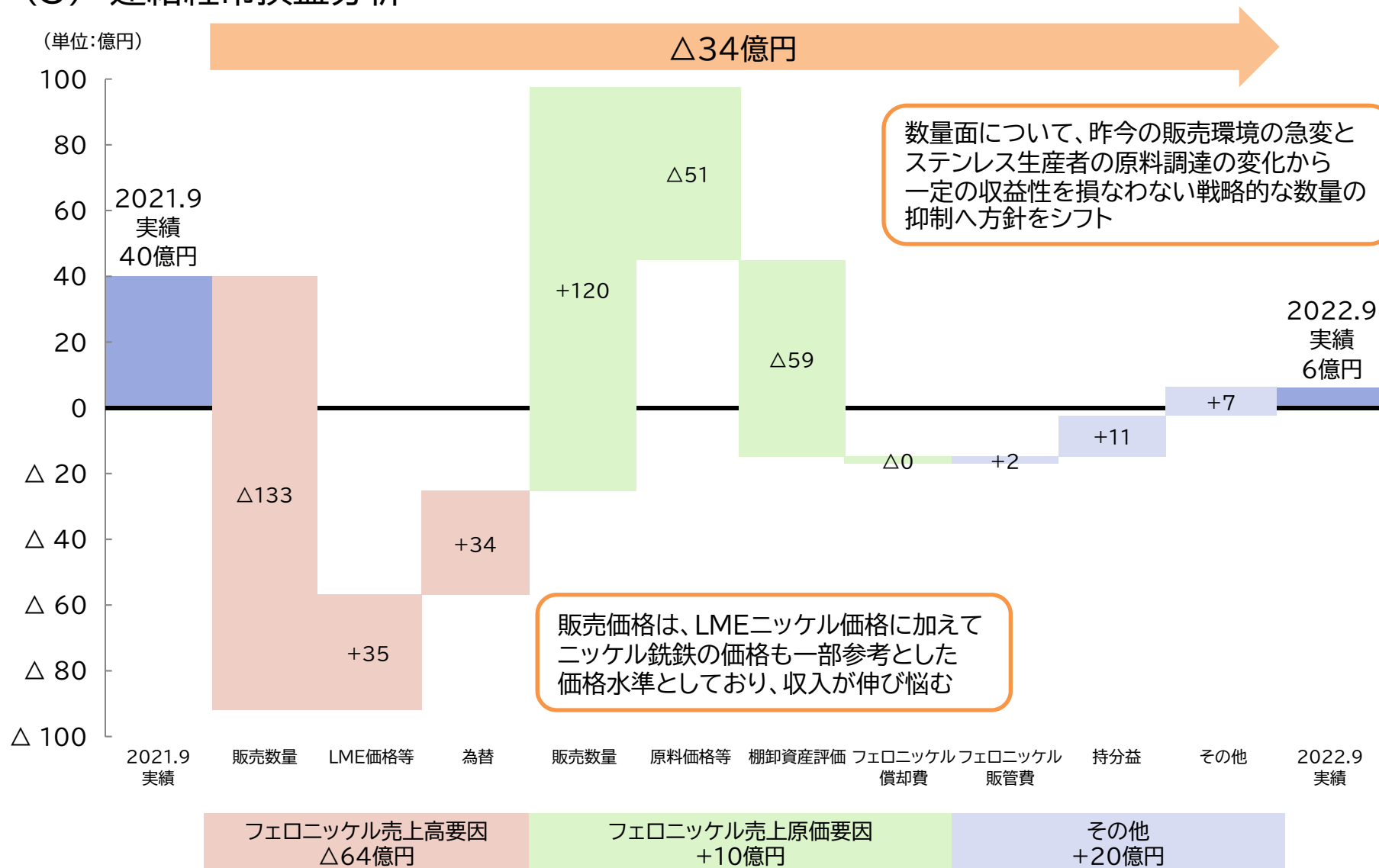
#### ③生産面(電気炉溶融物事故について)

- 生産設備(1基)の操業再開について
  - 一定の収益性を損なわない  
戦略的な数量の抑制の方針をシフト
  - 2023年3月期の第3四半期に見込んでいた操業再開は、  
2024年3月期へ変更

#### ④販売価格面

- ニッケル銑鉄(NPI)価格の影響
  - 当社適用LMEニッケル価格と  
当社適用為替レートに加えて  
ニッケル銑鉄の価格も一部参考とした  
価格水準としており、収入が  
伸び悩む

### (3) 連結経常損益分析



---

## 3. 2023年3月期 通期決算見通し

---

### 3. 2023年3月期 通期決算見通し

#### (1) 通期決算見通し(サマリー)

	2022.3 実績		2023.3 予想 (7/29発表)		2023.3 予想 (10/28発表)		対 前期比(%)	対 7/29発表 予想比 (%)
	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)	金額 (百万円)	利益率 (%)		
売上高	57,129	—	60,744	—	35,548	—	△37.8	△41.5
営業利益	4,806	8.4	△1,516	△2.5	△9,997(*)	△28.1	—	—
経常利益	12,999	22.8	2,508	4.1	△3,493(*)	△9.8	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,368	19.9	2,167	3.6	△3,711(*)	△10.4	—	—
(投資額)	686	—	—	—	1,316	—	91.8	—
(減価償却費)	256	—	—	—	291	—	13.7	—

(\*) 棚卸評価損 32億円(2023.3 予想)を除く損益：営業利益 △67億円、経常利益 △2億円、当期純利益 △5億円

	2022.3 実績			2023.3 予想 (7/29 発表)	2023.3 予想 (10/28発表)			対 前期比 (%)	対 7/29発表 予想比 (%)
	上期	下期	通期		上期実績	下期予想	通期予想		
生産数量(Niト)	11,874	14,375	26,249	20,581	8,079	5,857	13,936	△46.9	△32.3
販売数量(Niト)	12,957	14,103	27,060	20,500	5,668	7,332	13,000	△52.0	△36.6
適用LME(US\$/ト)	17,902	20,569	19,290	25,089	26,720	22,112	24,119	25.0	△3.9
[適用LME(US\$/lb.)]	[ 8.12 ]	[ 9.33 ]	[ 8.75 ]	[ 11.38 ]	[ 12.12 ]	[ 10.03 ]	[ 10.94 ]		
適用為替(¥/US\$)	109.16	113.97	111.67	120.46	131.49	134.12	132.98	19.1	10.4

#### (2) 通期決算見通し(トピックス)

##### ①生産・販売数量面

- 戦略的な数量の抑制の方針をシフト
  - 電気炉溶融物漏出事故の影響
  - ニッケル銑鉄(NPI)の影響
  - 前回(2022年7月)公表計画を下回る厳しい環境を見込む

##### ②生産面(電気炉溶融物事故について)

- 事業環境を注視
  - 数量抑制方針を解除した段階で立上げ予定
  - 2023年3月期の第3四半期中には、生産設備自体の復旧は可能な状態まで整備する見込み

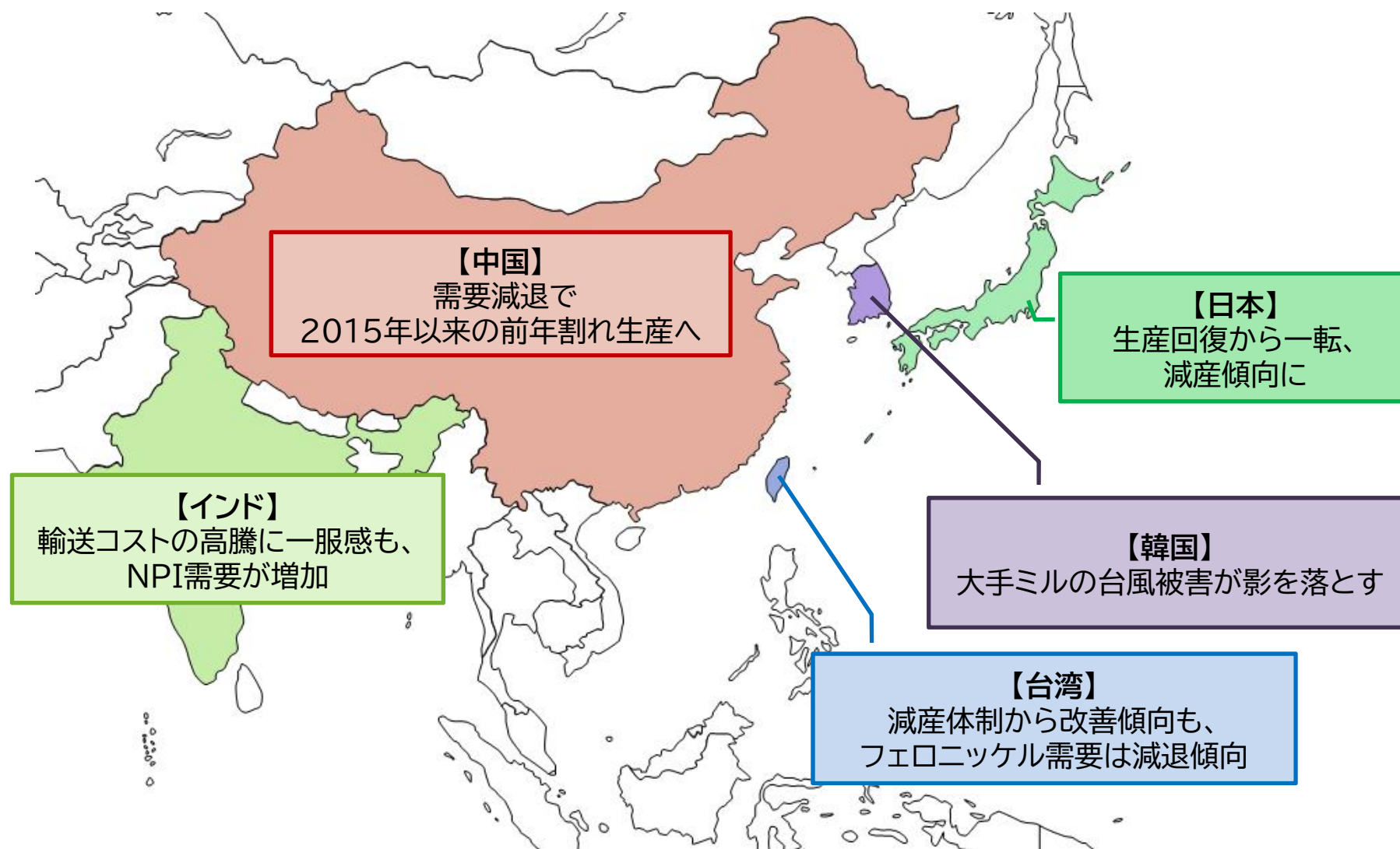
##### ③販売価格面

- ニッケル銑鉄(NPI)価格の影響
  - 当社適用LMEニッケル価格と当社適用為替レートに加えてニッケル銑鉄の価格も一部参考とした価格水準としており、売上高への影響が見込まれる

##### ④調達面

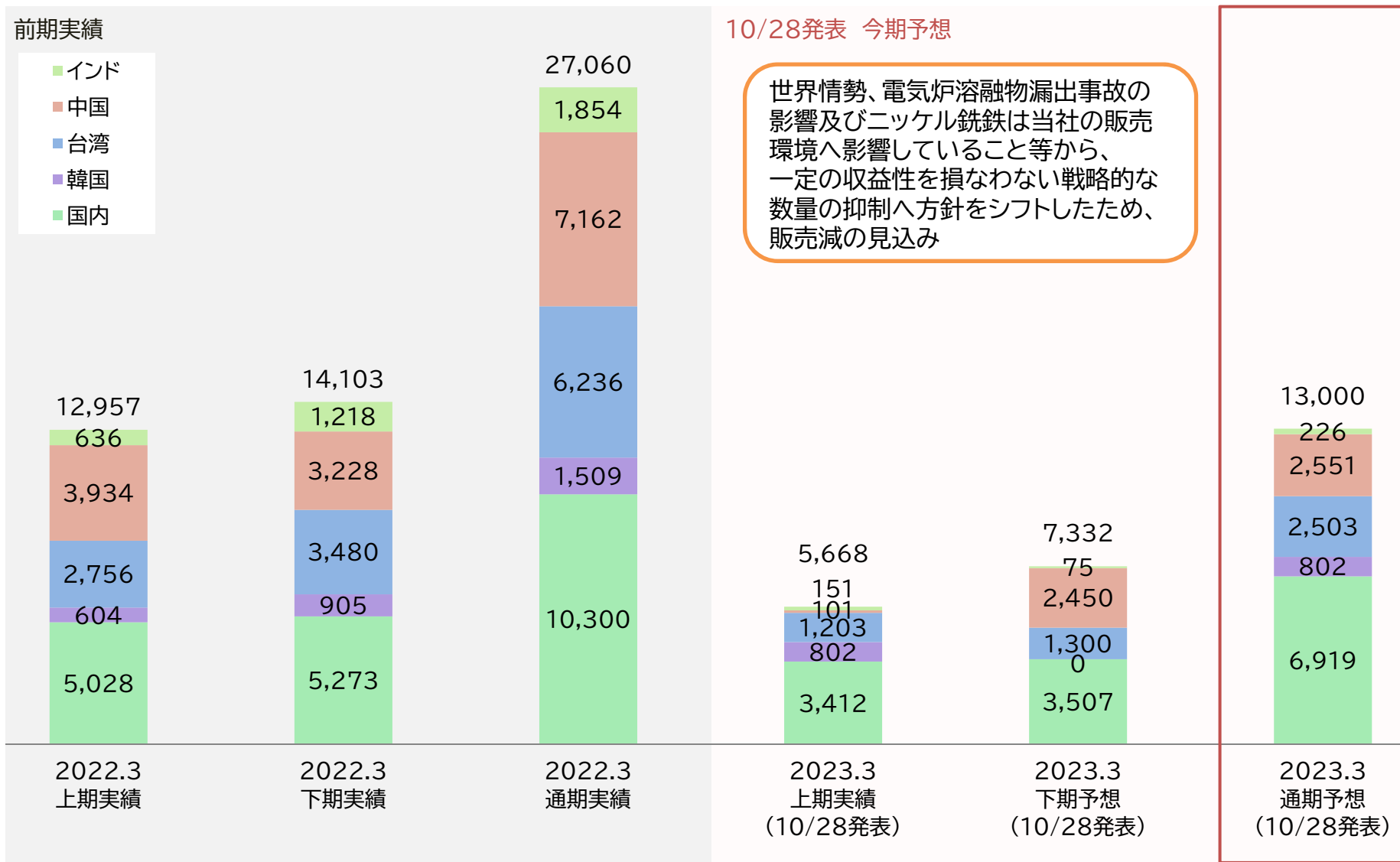
- 生産コストの上昇
  - ニッケル鉱石価格は高水準で推移
  - エネルギーコストの高騰等によって生産コストの上昇幅が拡大
  - 損益へ大きな影響が見込まれる

#### (3) 国別販売先の動向



#### (4) 国別販売見通し

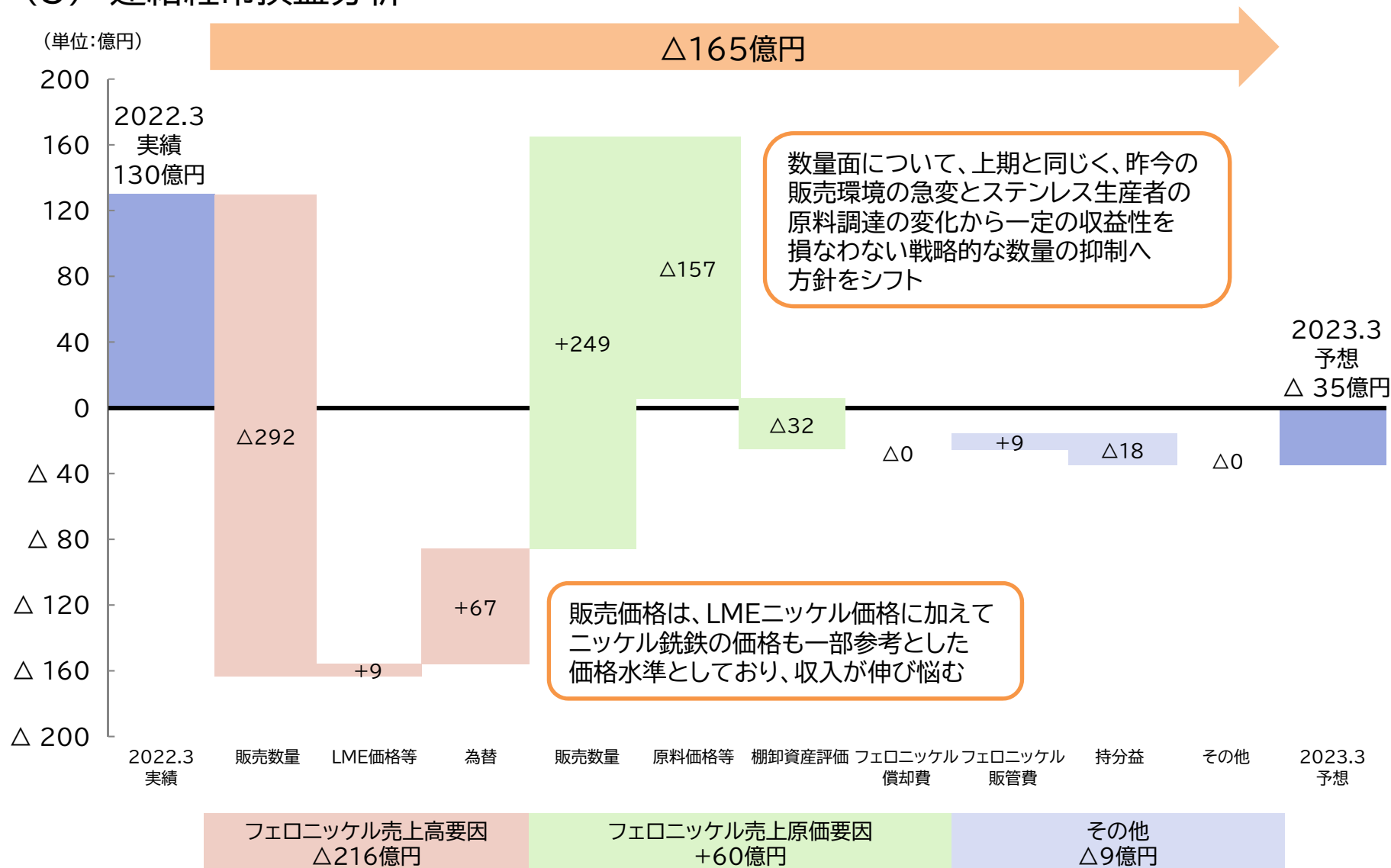
(単位: Niト)



世界情勢、電気炉溶融物漏出事故の影響及びニッケル銑鉄は当社の販売環境へ影響していること等から、一定の収益性を損なわない戦略的な数量の抑制の方針をシフトしたため、販売減の見込み



#### (5) 連結経常損益分析



---

## 4. 中期経営計画 「PAMCO-2024」の進捗状況

---

## (1) 主な重点施策の進捗状況まとめ

### 海外製錬事業への展開検討の加速



- 海外製錬プロジェクトの推進と生産立上げ
  - 海外製錬事業への参画に向け、引き続きインドネシア現地パートナーとプロジェクトを推進
  - 海外製錬事業へ当社の技術力を活かすことにより、資源国とより強固な関係を築く



※鉱山のイメージ写真

### 社会に貢献する新規事業の創出



- LIB材料向け原料の製造販売事業の推進
  - エマルジョンフローを活用したLIB材料向け原料の製造プロセスを確立

💡「エマルジョンフロー」とは？

エマルジョンフローは日本原子力研究開発機構で開発された溶媒抽出法で、製品品質を確保する上で必要不可欠な不純物分離を送液のみの1工程で可能とする革新的手法です。

- 新たな金属製錬プロジェクトの推進
  - 既存の製錬設備を利活用し、将来的な地下資源不足の対応への貢献を目指し、新たな金属製錬事業の検討に着手

💡「新たな金属製錬事業」とは？

ニッケルを含むレアメタル資源の活用を目指しております。

### (1) 主な重点施策の進捗状況まとめ

#### 循環型社会に貢献する国内事業の多角化



#### • リサイクル事業の再構築

➤ アミタ社を含めた他社との協業等を通じ、当社の強みを生かしたリサイクル事業を検討中

➤ 他社で発生する副産物を活用し、製鋼用原料及び電池材料向け原料の製造販売に向け、実証試験を実施中



➤ 当社溶融処理技術を活用し、都市鉱山資源からの貴金属抽出による再資源化に取り組み、将来の事業化を検討中



## (1) 主な重点施策の進捗状況まとめ

### サステナビリティ課題への対応による企業価値の向上



- **サステナビリティ推進会議**
- 気候変動対応を含めた重要課題の解決に向け、経営の執行責任者を委員とした体制にて推進

#### ✓気候変動への取り組み

- ・5月:気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)提言への賛同を表明
- ・6月:気候変動への取り組みとTCFDへの対応 (ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標)の開示

※詳細は当社HP (サステナビリティ)を ご参照ください



#### ✓今後の取り組み

- ・Scope3算定に着手
- ・引き続き、1.5°C及び4°Cのシナリオ分析を行い、リスクと機会に対応するレジリエンスを確認中

- **GHG排出量の低減**
- 化石エネルギーからの脱却に向け、マイクロ波を活用した電化プロセスの検討に着手

- ✓原料の鉱石が含む結晶水の分解除去
- ✓Niリサイクル資源からの不要成分除去
- ✓CO2排出量の削減(2030年度GHG排出量2013年度比46%減)と製造コストの削減を追求

#### 💡「マイクロ波を活用した電化プロセス」とは？

これまで、熱源として化石燃料を使用していましたが、電化することで、再生可能エネルギーの活用につながる可能性が広がります。

また、熱効率の面から省エネルギー化につながる可能性もあると考えています。



## 4. 中期経営計画「PAMCO-2024」の進捗状況

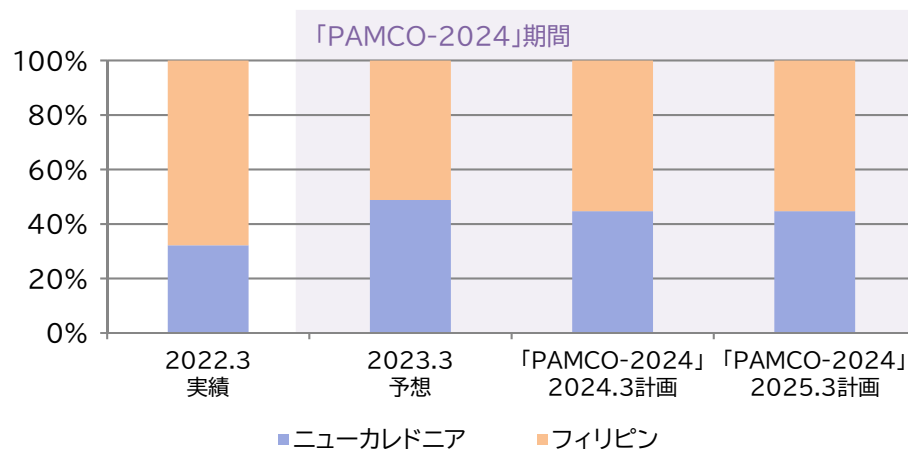
### (2) 鉱石調達について

#### ① 長期契約締結状況

長期契約先	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3
■ リオ・チバ・ニッケル社(36%出資)	前契約期間	更新	契約期間:2022.1~2026.12(5年間)		
■ タガニート社(33.5%出資)	前契約期間		契約期間:2022.1~2026.12(5年間)		
■ カグジャナオ社	前契約期間		契約期間:2022.1~2026.12(5年間)		
■ MKM社(1)	契約期間:2014.1~2023.12(10年間)				
■ MKM社(2)	契約期間:2016.1~2025.12(10年間)				
■ モンタニア社	契約期間:2016.4~2026.3(10年間)				

■ フィリピン ■ ニューカレドニア


#### ② 調達割合



#### ③ 調達状況について

- ニッケル鉱石調達を取り巻く環境**
  - インドネシア鉱石は2014年1月に禁輸実施
  - 2017年1月~2019年12月まで一時禁輸緩和
  - その後、2020年1月より禁輸再開
  - 鉱石需給は引き続きタイトな状況が継続
- 当社の鉱石調達方針**
  - 継続した鉱石調達方針として、ニューカレドニア鉱石の調達拡大を推進

### (3) ESGへの取り組み

<p><b>環境</b> (Environment)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>GHG排出量削減に向けた取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ CO2排出量の削減(2030年度GHG排出量2013年度比46%減)と製造コストの削減を追求</li> <li>➢ 詳細は本資料のP21をご参照ください</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>今後の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 環境・社会報告書から、統合報告書への移行を目指し、今年度中の発行に向けて取り組み中</li> <li>➢ 多様性の確保に向けた取り組みの推進</li> <li>➢ TCFDに即した開示内容の更なる充実</li> <li>➢ 指名・報酬委員会(任意)を通じて、役員報酬のあり方について議論を深める</li> </ul>
<p><b>社会</b> (Social)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>地域社会とともに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地元サッカークラブチーム(ヴァンラーレ八戸)への協賛</li> <li>➢ 地元高校への新聞1年分・新聞ラック寄贈(右写真)(朝日写真ニュース社「赤十字活動」)</li> </ul> </li> </ul> 	
<p><b>ガバナンス</b> (Governance)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>政策保有株式の縮減について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2023年3月期は5銘柄縮減</li> <li>➢ 残りの政策保有株式についても、順次縮減検討</li> </ul> </li> </ul>	



# 大平洋金属株式会社

---

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。

本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

---